

囲碁入門講座通信 令和4年第46号



報告:有楽斎

毎月第二日曜日の午後1時半から午後4時ごろまで、朝日2丁目集会所で「囲碁入門講座」に、それなりに一所懸命取り組んでいるのですが、新型コロナウイルス感染を防ぐために、「三つの密」密閉・密集・密接を避けがたく、まことに口惜しところですが、**現在休局中**です。
(棋士名は楯に因んだ名をニックネームとして表記しています)

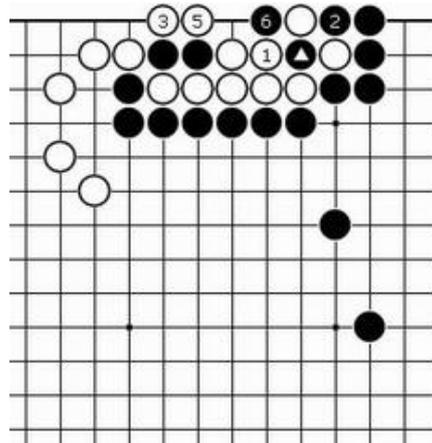
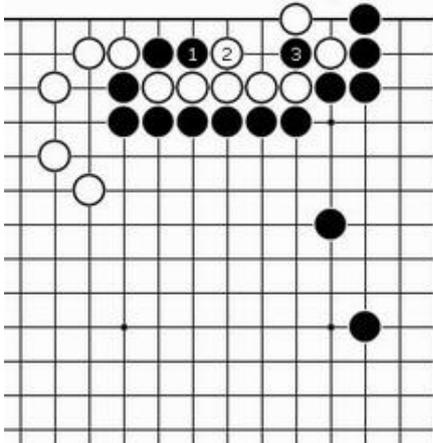
今号でも入門者用にヨセ問題をご案内したいと思います。(監修:太神楽(だいかくら)師匠)

逆転するもされるもヨセ次第 アマの級位者や低段者はヨセを軽視する傾向があります。実戦では、ヨセの巧拙で20目くらいは差がついてしまうことに気がついていないのです。ヨセには死活が絡むこともあり、対応を誤ると石が死んで即投了ということになります。ヨセが強くなるだけでも、1~2級は強くなれるでしょう。

(前号の続き) **問題6 正解図1** 黒1と打つのはこの石を助けようというわけではありません。黒3と打ち欠いて攻め取りにしようというのです。この後の結末が瞬時にぱっと見えれば有段者です。

正解と解説

問題6 正解図2



前図の続きです。白1の一手に黒2。白はアタリにつげませんから白3と打ち、黒4(▲)のコウ取りに白5は仕方ありません。黒6まで大きな成果を上げました。

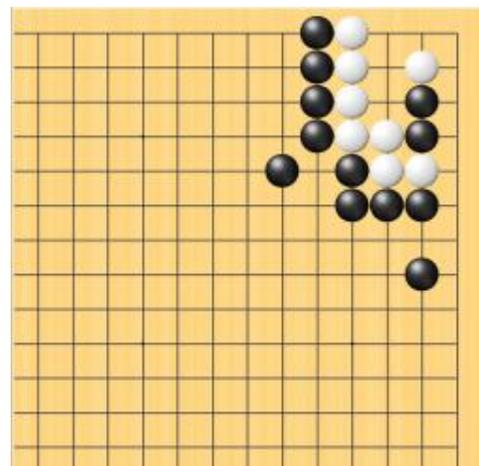
詰碁問題 詰碁で直観力とヨミの精度を鍛える

囲碁は、戦いを避けては勝つことができません。布石段階でも、どちらかが無理をすればたちまち戦いの碁になりますし、定石の変化は常に死活と隣り合わせです。初段から三段、五段と棋力を伸ばしていくためには、やはり部分の戦闘力である死活を読む力が要求されます。

そのための最善のトレーニング法として、昔から詰碁を解くことが奨励されてきました。自分の棋力に合った詰碁を繰り返し解くことによって、直観力を鍛え、読みの精度を高めることができます。実戦ではとかく勝手読みをして、大事なところで失敗しがちですが、詰碁を解くことによって「受ける側の好手」も見落とさない本物の力が付くでしょう。詰碁嫌いの低段者の方は、今号からの詰碁問題6問を研究しながら、ぜひ詰碁の面白さと有用性を知ってください。

詰碁問題1 黒番

白を取ってください。



詰碁問題1の正解と解説は 次号(第47号)でご案内します。

問題は、囲碁上達法(詰碁)より引用しました。次号は6月10日発行予定です